

キ 公開研究会

(ア) 平成 25 年度第 6 回「理工系大学における高度教養教育への視座」

京都三大学教養教育研究・推進機構 教育 IR センター 特任准教授
児玉 英明

I 概要

(1) 日時

平成 26 年 3 月 17 日(月) 15:00 ~ 17:30

(2) 場所

京都工芸繊維大学 1 号館 1 階 0111 講義室

(3) 講師

吉永 契一郎 氏
(東京農工大学 大学教育センター 准教授)

(4) 講師略歴

1987 年国際基督教大学教養学部卒業
1998 年コロンビア大学 Ph.,D.
新潟大学教育開発研究センター助教授を経て、
現職。大学教育学会理事。

【専攻】 高等教育研究、大学史、比較教育

【論文】

- ・吉永契一郎・堀井祐介・中島英博「ヨーロッパにおける大学教育の多様性と統合」『高等教育研究叢書』広島大学高等教育研究開発センター、第 119 号、2013 年。
- ・吉永契一郎「ヨーロッパの物理教育の多様性」『大学の物理教育』第 18 巻、第 1 号、27-30 頁、2012 年。
- ・吉永契一郎「教育モデルとしてのリベラル・アーツ・カレッジ」『大学教育学会誌』、第 31 巻、第 1 号、120-127 頁、2009 年。

【翻訳】

- ・P.J. パーマー『大学教師の自己改善－教える勇気－』吉永契一郎訳、玉川大学出版部、2000 年。

II 講演要旨 (吉永 契一郎)

大綱化以降、教養教育が学士課程教育全体の目標となった。そこで、理工系教育の実情に即して、専門教育を通じた教養教育と、専門教育の「欠如態」としての教養教育について、考察を行う。

従来から教養教育の大きな目的は、人間形成と異分野理解であるとされてきた（大学審答申、1998 年）。理工系においては、実験・実習・卒業研究の比重が高く、「自分の能力に自信を持ち、学問との一体感を体験する」という人間形成について、専門教育はかなり目的を達成していると言える。

これに対して、現在でも模索が続いているのは、異分野理解である。研究活動の高度化・細分化は、同時に、視野の狭窄化や党派主義をもたらす危険性を持ち、利害関係を越えた理想やヒューマンズムの精神は後退しがちである。この分野においては、サービス・ラーニングや海外研修等の教育方法が浸透しつつあるが、何より求められるのは、教員のコミュニティ意識である。

教養教育は、本来、個人的な利益ではなく、市民性・社会責任・公共善を志向するものであり、現状に対する批判精神と未来に対する想像力を提



供するものである。しかしながら、近年、教養教育についての議論自体が、競争的な環境における個人の能力開発に重点を置いた現状追随となっている。ここでは、日本学術会議の回答（2010年）などを参考に、理工系の教養教育のあり方についての議論を深める。

Ⅲ 第6回公開研究会での 論点（児玉 英明）

(1) 理工系大学における高度教養教育科目

教養教育を専門教育に先立って教えるものと位置づけるのではなく、学生の発達段階に応じて、学部から大学院までの一貫した教育プログラムとして論じる場合、特に3年次以降の高度教養教育科目には、どのような特徴が見られるのか。

本稿では東京農工大学の農学部のカリキュラムを事例とし、配当年次が3年生以上の科目が存在する大分類「持続可能な地球のための科学技術」と「共生人文社会科学」の下に位置する科目特性を考察する。

「持続可能な地球のための科学技術」という大分類の下には、「科学技術と社会」という中分類がある。「科学技術と社会」の中分類の下には、「科学史」、「産業史」、「農業史」、「食料・環境問題」、「技術者倫理」、「知的財産権論」、「生命倫理」、「自然保護文化論」の8科目が開講されている。この8科目のうち、配当年次が3年次以上になっている科目は、次の4科目（「技術者倫理」、「知的財産権論」、「生命倫理」、「自然保護文化論」）である。

「共生人文社会科学」という大分類の下には、「共生人文社会科学 A」と「共生人文社会科学 B」と

いう中分類が配置されている。

「共生人文社会科学 A」の下には、「現代倫理論」、「現代宗教論」、「多文化共生論」、「ジェンダー論」、「共生社会政策論」、「国際平和論」の6つの科目が開講されている。この6科目のうち、配当年次が3年生以上になっている科目は、次の3科目（「ジェンダー論」、「共生社会政策論」、「国際平和論」）である。

「共生人文社会科学 B」の下には、「人間と文化」という小分類があり、「哲学」、「文学・芸術学」、「心理学」、「教育学」の4科目が開講されている。併行して、「社会の構造」という小分類の下には、「日本国憲法」、「経済学」、「社会学」、「歴史学」の4科目が開講されている。この8科目のうち、配当年次が3年生以上になっている科目は、次の4科目（「哲学」、「文学・芸術学」、「心理学」、「教育学」）である。

(2) 高度教養教育科目の特性

東京農工大学の科目表から伝わってくるカリキュラム・ポリシーは、「教養教育としての『科学技術と社会』を、学生の発達段階に応じてどのように教えるか」という問題意識である。3年生以上が対象の「技術者倫理」、「知的財産権論」、「生命倫理」、「自然保護文化論」という科目は、従来の教養教育科目としては、あまり見受けられないものである。

また、社会科学分野における配当年次が3年生以上の「ジェンダー論」、「共生社会政策論」、「国際平和論」も、経済学概論や政治学概論といった概論科目とは性格を異にする科目である。学問体系を15回完結で教える概論としての教養教育科目ではなく、むしろ今日の時代がどのような問題に直面しているのかを扱った科目である。

(3) 教養教育カリキュラム論の視座

京都三大学教養教育研究・推進機構が高度教養教育のカリキュラムを検討する際に参照すべき視点は次の二つである。

第一に、本機構でも「エネルギー科学」、「科学と思想」といった新規科目を開発したが、自然科学の概論科目とは違った特性を持ったリベラルアーツ科目を、高度教養教育科目として設ける場合、どのような工夫が求められるのか。

第二に、本機構でも「現代社会とジェンダー」、「アメリカと中国はいま」という科目があるが、社会科学の概論科目とは違った特性を持った、「時代の風を反映した同時代論的な科目」を高度教養教育科目として設ける場合、どのようなテーマに教養教育は向き合う必要があるのか。

上記の二つの問いに向き合うことが、「時代が求める新たな教養教育」のカリキュラム・ポリシーの検討につながるだろう。

<表>東京農工大学における高度教養教育科目

	持続可能な地球のための科学技術		共生人文社会科学	
	自校教育	科学技術と社会	共生人文社会科学 A	共生人文社会科学 B
			人間と文化	社会の構造
4 年次後期		技術者倫理		
		知的財産権論		
		生命倫理		
		自然保護文化論		
4 年次前期				
3 年次後期		技術者倫理	ジェンダー論	心理学
		知的財産権論	国際平和論	
		生命倫理		
		自然保護文化論		
3 年次前期			共生社会政策論	
				哲学
				文学・芸術学
				心理学 教育学
2 年次後期				
2 年次前期				
1 年次後期			現代倫理論	
			多文化共生論	
1 年次前期	MORE SENSE 入門	科学史	現代宗教論	日本国憲法
		産業史		経済学
		農業史		社会学
		食料・環境問題		歴史学